

第11回 斐伊川水系 生態系ネットワークによる
大型水鳥類と共に生きる流域づくり検討協議会
議事要旨

あいさつ

事務所長 生態系ネットワークの取組は平成27年から始まり、今年で10年目になる。河川行政は治水、利水、環境保全を目的としているが、これらの取り組みはいずれも流域の自治体の協力のもとに進めることが重要となっている。少しでも環境をよくする取り組みを、今後も進めていきたいと考えている。皆様からの忌憚のないご意見をいただき、実りある会議としたい。

規約の改正（委員の交代）

委員の交代：

田部 長右衛門 委員（中海・宍道湖・大山ブロック経済協議会会長）

兒子 真也 委員（国土交通省出雲河川事務所長）

（承認）

議事

議事（1）生物多様性に関する国内外の動向と斐伊川水系生態系ネットワーク全体構想について
（資料1：「斐伊川水系生態系ネットワーク全体構想について」の説明）

（質疑なし）

議事（2）活動状況等報告

2-1) 水辺環境等

（資料2-1：活動状況等報告① 水辺環境等の説明）

委員 資料にある整備を行った斐伊川河口左岸、宍道湖出島箇所は、以前は水田があった場所で、良好な湿地環境を有していた。今は湖の一部となっているが、河口から流れ出る砂を利用して浅い場所をひろげていこうという取り組み。過去にあった環境をできるだけ取り戻すという意味では非常に重要な場所であり、今後の成果を期待しているところ。

委員 宍道湖はスズキのルアー釣りが有名だが、こうした浅い場所に釣り人が立ち入ることもある。水路を掘ることにより人の立ち入りが難しくなり、鳥が逃げなくて済むと考えられる。シジミ漁の点からも、水路を掘ることにより水の流れができて淀みがなくなり、環境が改善される。大変ありがたい取り組み。欲を言えば、斐伊川河口の右岸、島村側も水の淀みが発生するので、水路ができるとありがたい。

委員 斐伊川水系とはなっているが、神戸川をどうするかという議論がされていない。トキの飼

育施設に一番近いのが神戸川。堤内のビオトープ整備等の取り組みが進められている地域の一つである稗原も神戸川の流域。出雲河川事務所では、今後神戸川についてどのような整備計画を考えているか。

委員 本取組は神戸川も含めた斐伊川水系ということで進めているところ。神戸川漁協もまじえて、神戸川の生息環境づくりの検討を進めている。

流域治水の取り組みも水系一帯で進めているところだが、単独の市町ではなく、上流から河口部まで、流域一帯として生態系ネットワークの取組を進めていきたいと考えている。

2-2) 農地環境

(資料 2 - 2 : 活動状況等報告② 農地環境の説明)

委員 雨水たんぼの取組は良い取組。島根、鳥取は冬の降水量が多く、少しの努力で水田の湿地機能を発揮することができる。

他方、メタン発生抑制のために農業政策として秋耕を推進しており、トレードオフの関係にあるのでどのように整理すると良いだろうか、という声も聞く。

そもそもとして、生わらをすきこまず、酸素がある状態でわらが分解されればメタンは発生しない。最初から稲わらをすき込まずに表層で処理する、別の場所でたい肥化してから戻すなどすればよく、こうした取り組みを直接支払い等で支援するのが良い。わらをすき込まずに処理するにはどうすればいいか、という観点から検討を進めれば気候変動問題についてもっとポジティブに解決できると思う。

委員 農林水産省から説明のあった宍道湖西岸地域の土地改良工事については、同工事に関する環境懇話会に当初から自分も参加し、意見を述べてきたところ。対策をとっているが、大型水鳥の飛来地となっている場の対策としては十分ではないということも何度か述べてきた。難しい点もある取り組みだが、環境に配慮した工事を可能な限り行っていただきたいと思う。

委員 日本の農業政策は減反の流れが今も続いており、結果として水田はそれ以外の土地利用、畑等になっている。水鳥にとってはおそらくは好ましい状況ではない。地域ごとの特性を踏まえないといけないと思うが、全国一律ではなく、地域に応じた土地利用、土地利用の転換を進めていけると良いと思った。

座長 生態系ネットワークの形成を進める上で、土地利用の検討は避けては通れない。私も折を見て働きかけていきたい。農林水産省の皆様にもご尽力いただきたい。

2-3) 地域振興

(資料 2 - 3 : 活動状況等報告③ 地域振興の説明)

委員 市内で子育てをするコウノトリのペアが新たに生まれたが、巣塔を建てるのも地元の了解

をとるのも大変。周知活動は必要だと思う。コウノトリの生息環境づくりを進める上では水田をいかに維持していくかが大事になるが、農薬の使用量を抑えるなどすれば手間もかかり、後継者問題も深刻化する。こうした場所におけるお米が高価格で取引されるようになり、県内外にて取組が周知、評価され価格にフィードバックされれば、改善すると考えている。全国的なテーマとして、こうした取り組みの意義と価値の普及を進めていただきたい。

座長 お米のブランド化、高付加価値化については、豊岡が先行してコウノトリ育むお米を、関東ではいすみ市が「いすみっこ」という農薬・化学肥料不使用米のブランドを立ちあげている。いすみっこは地元のイオンでも商品として扱われている。

委員 雲南市長から大変切実な、また重要な意見があった。他方、この10年間、地域振興ということで考えると、斐伊川水系生態系ネットワークの中では苦慮しているという状況。

様々な主体の取り組みが少しずつ広がってきているところであるが、未だ大きなうねり、ムーブメント、盛り上がりというところにはまだ至っていない。今後、出雲市のトキ、それから雲南市のコウノトリを地域振興、観光や交流人口の増加ということで考えてみた場合、まだ大きな課題がある状態だと思う。非常に難しい取組であり、もう少し大きなうねりにならないか、と思っているというのが正直なところ。

2-4) 環境学習

(資料2－4：活動状況等報告④ 環境学習 の説明)

(質疑なし)

議事(3) 斐伊川水系生態系ネットワークのイメージ図について

(資料3：斐伊川水系生態系ネットワークのイメージ図 説明)

(質疑なし)

議事(4) その他、情報提供

(資料4：「第2回トキと共生する里地づくりネットワーク協議会の概要」の説明)

(質疑なし)

座長 国際的な動きとしては、環境問題、とりわけ生物多様性に関する関心は非常に高まっている。この協議会の中でも、皆様のご意見の中を聞くに、関心の高さを実感する。

しかし、実際、土地利用や防災・減災をどのようにしていくかということについては、頭では理解していても中々その通りに動かない、動かせないという悩みをみんな抱えているのではないか。生態系ネットワークの形成とそれを活かした地域振興、環境と経済の好循環の社会構造をつくりあげていくには、まだしばらく私たちは辛抱を必要とすると感じている。

今日の報告を得て、一歩ずつ前に進んでいると感じている。これからも時間をかけなければ、私たちが思うところには到達しないと思うが、今後ともぜひご尽力をお願いしたい。

閉会

事務局

本日の資料は、出雲河川事務所のウェブサイトにて公表させていただく。また、議事録についても、名前を伏せたものを公表させていただく。

以上